

年号	出来事
1549 (天文 18)	日本にキリスト教布教
1565 (永禄 8)	修道士ルイス・デ・アルメイダ志岐布教
1572 (元龟 3)	アルメイダ、河内浦に布教
1582 (天正 10)	アルメイダ、河内浦駐在 天草尚種没
1583 (天正 11)	天草久種 (ドン・ジョアン) 家督相続
1591 (天正 19)	天草にコレジヨ設置
1594 (文禄 3)	河内浦に修道院を置く 朝鮮出兵 (文禄の役) 寺沢広高、初代長崎奉行に就任
1601 (慶長 6)	関ヶ原の戦、肥後は加藤清正領に
1606 (慶長 11)	崎津にレジデンシア設置
1633 (寛永 10)	天草宗門改、寺請証文の提出
1637 (寛永 14)	島原・天草の乱勃発
1638 (寛永 15)	原城落城、島原・天草の乱終結
1641 (寛永 18)	天草天領となる 初代代官として鈴木重成就着任
1654 (承応 3)	キリシタン禁制の高札を設置
1657 (明暦 3)	大村藩郡村で潜伏キリシタン (郡崩れ)
1660 (万治 3)	豊後崩れ
1680 (延宝 8)	キリシタン禁制の高札、公布
1790 (寛政 2)	浦上で潜伏キリシタン発覚、取調べ (浦上一番崩れ)
1804 (文化元)	今富村で年級し発覚、キリシタンの嫌疑大江、崎津、今富で潜伏キリシタン発覚
1805 (文化 2)	高浜村でも発覚。4か村で合計 5 2 0 5 人 (天草崩れ)
1806 (文化 3)	キリシタン発覚事件の幕府下知
1813 (文化 10)	崎津村で潜伏キリシタン 3 名捕らわれる
1839 (天保 10)	浦上で潜伏キリシタンの密告、捕縛 (浦上二番崩れ)
1856 (安政 3)	浦上で潜伏キリシタン捕縛、拷問 (浦上三番崩れ)
1857 (安政 4)	絵踏廃止令出る (※肥後・豊後では継続)
1860 (万延元)	宗門改は続行、ただし絵踏廃止
★1865 (元治 2)	信徒発見
1867 (慶応 3)	徳川慶喜、大政奉還
1868 (慶応 4)	神仏分離令布告、切支丹禁制の高札浦上四番崩れ
1873 (明治 6)	明治政府、切支丹禁制の高札撤去 大江でキリシタン復活
1880 (明治 13)	大江教会、崎津教会創立
1882 (明治 15)	フェリエ神父、崎津教会第 2 代司祭に着任
1885 (明治 18)	フェリエ神父、崎津に天主堂を建立
1928 (昭和 3)	ハルブ神父、崎津教会第 4 代司祭に着任 ガルニエ神父大江教会専任となる
1933 (昭和 8)	現・大江天主堂建立
1934 (昭和 9)	現・崎津天主堂建立



■写 真/所蔵・提供が明示されていない写真資料は天草市の所有である。
 ■発 行/天草市役所 世界遺産推進室
 ■発行日/平成 25 年 8 月 1 日
 ■問い合わせ/ TEL : 0969-32-6779 , FAX : 0969-23-5312
 ※本パンフレットの記事、写真の無断掲載及び複写を禁じます。



天草市は長崎県、熊本県及び構成資産が所在する関係市町と共に、
 平成 28 年 の世界遺産登録を目指しています !!

世界遺産候補

「天草の崎津集落」

「長崎の教会群とキリスト教関連遺産」の構成資産



~ SAKITSU village of AMAKUSA ~

■「長崎の教会群とキリスト教関連遺産」とは...

「長崎の教会群とキリスト教関連遺産」は、450年以上にも及ぶ、日本のキリスト教の伝来から復活の過程を物語る文化遺産です。

16世紀中頃に西洋文化とキリスト教が「伝来」し、全国で「繁栄」しましたが、17世紀には禁教令と「弾圧」により、ひそかに信仰を続けた「潜伏」期に入ります。そして19世紀の開国とともにキリスト教が解禁され「復活」すると、各地に西洋と日本の伝統・文化が融合した教会が建てられました。

「長崎の教会群とキリスト教関連遺産」は、キリスト教伝来から今日までの歩みが世界史の中でも高い価値とストーリーを有しており、教会等と地域の景観が一体となった独自の文化的景観を形成しています。

その中でも、「天草の崎津集落」は、「ひそかに信仰を続けた潜伏期」が高い評価を受け「長崎の教会群とキリスト教関連遺産」の構成資産に選ばれました！

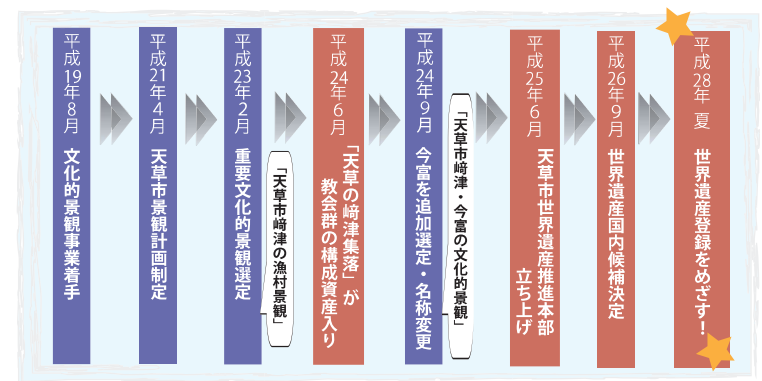


▲崎津小高浜出土
ロザリオと壺
(天草キリシタン館蔵)



▲メダリオン
(天草キリシタン館蔵)

▶繪子地著色聖体秘蹟図指物
(通称「天草四郎陣中旗」)
(天草キリシタン館蔵)



「天草の崎津集落」は、国選定の重要文化的景観「天草市崎津・今富の文化的景観」の選定地でもあります。左のマークは「崎津・今富」で作成した地域のシンボルマークです！



崎津諏訪神社



「弾圧」と「復活」の象徴を繋ぐ道



崎津教会

コアゾーンの構成要素

◆コアゾーン【構成資産】



- ①崎津教会、②崎津諏訪神社、③教会と神社を繋ぐ道
- ④歴史を共にした空間で構成します。

◆バッファゾーン【緩衝地帯】



重要文化的景観選定範囲のなかで、旧崎津村の一部である下町、中町、船津、向江と海域を含みます。

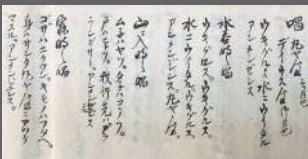
■「天草の崎津集落」の特徴

■迫害と潜伏

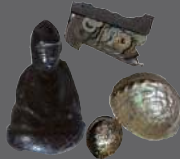
禁教下において、潜伏キリシタンは洗礼やオランヨをひそかに伝承し、禁教令が解かれるまでの250年以上もの間、信仰を守り続けました。

なかでも崎津の潜伏キリシタンは、メダイやロザリオのほかにはアワビやタイラギ貝など海に関するものを聖遺物として信仰したことが特徴です。

また潜伏キリシタンが発覚した「天草崩れ」では崎津諏訪神社が異仏取調べの舞台となりました。信者は「何方江参詣仕候而も矢張あんめんりゆすと唱申候」と言い、寺社へ参詣したときにも「あんめんりゆす=アーメンデウス」と唱えていました。



▲オランヨ ※祈りの言葉



▲潜伏信者の信仰対象

■教会建築

現在の崎津教会は、長崎の建築家・鉄川与助により設計されたゴシック様式の教会で、昭和9年に建てられました。建てられた土地は、崎津教会の神父であったハルブ神父の強い希望で、弾圧の象徴である絵踏みが行われた吉田庄屋役宅跡が選ばれました。この絵踏みが行われた場所に、現在の祭壇が配置されたと言われています。

教会内部は国内でも数少ない畳敷きで、畳に座ってミサを行うことは、日本と西洋の文化の融合を示しています。



▲崎津古図



▲教会内部の畳敷き

※コアゾーン：「長崎の教会群とキリスト教関連遺産」の構成資産であり、価値を顕著に示す範囲

※バッファゾーン：コアゾーンと周囲の景観を一体的に守るための範囲